

それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、私の血による新しい契約である。しかし、見よ、私を裏切る者が、私と一緒に手を食卓に置いている。」（ルカ22：19～21）

時刻になったので、主イエスは弟子たちと共に「過越の食事」の食卓に着かれた。過越の食事は出エジプトした先祖の労苦と喜びを追体験するため、下記の6品が整えられた。①「マツァー」、種入れぬパンで、種が入っていないパンを持って出エジプトしたことを記念するため、これから「除酵祭」の名が付けられた。②「ゼローア」、焼いた羊肉で、羊の血によって脱出できたことを記念する犠牲の羊を象徴する。③「ベーツァー」、ゆで卵で、エルサレム神殿が崩壊した嘆きを表す。神殿崩壊は出エジプトと直接関係はないが、紀元前6世紀にバビロンによって神殿は崩壊させられ、ユダヤ人には耐え難い悲しみ、嘆きを想起する。④「カルパス」、過越祭は3月か4月で、春の季節を象徴する緑の野菜である。⑤「マーロール」、苦菜で、エジプトで奴隷の境遇にあった時に経験した苦労と流した涙を表す。⑥「ハローセト」、果汁の練り物で、奴隷時代にレンガ造りに苦しんだことを表す。飲み物として、もちろん、ぶどう酒が加わる。そして、追って来たエジプト軍が沈んだ紅海の海を象徴する「塩水」を用意する。

主イエスは弟子たちに、ご自分が苦しみを受ける前に使徒たちと一緒に、過越の食事をすることを願っており、また、神の国で過越が成し遂げられるまでは、二度と過越の食事をすることは無いと言われた。まず、杯を取り、感謝の祈りを献げて、互いに分けて飲みなさいと勧め、神の国が来るまで、今後、ぶどうの実から作ったものを飲むことはないと言われた。それから、種入れぬパンを取り、感謝の祈りを献げてそれを裂き、弟子たちに与え、「これは、あなたがたのために与えられる私の体である。私の記念としてこのように行いなさい」と言われた。そして食事の後、杯も同じようにして、「この杯は、あなたがたのために流される、私の血による新しい契約である」と言われた。これらの言葉は十字架の死を前にして、弟子たちとの告別と主イエスの使命を担う固い決意を表した言葉である。パンは、十字架上の主イエスの体である。これを食べて、主イエスを記念する。ぶどう酒は、十字架上で流された主イエスの血で、この血によって、エレミヤが預言した罪の赦しの新しい契約が成就した。パンを食べ、ぶどう酒を飲んで、主イエスが成し遂げられた神からの赦しを体で受け止める。この時には、弟子たちはパンとぶどう酒に秘められた奥義を理解できなかつたであろう。しかし、聖霊を受けて、罪の赦しの真理を知らされた。罪の赦しとは、私たちの生が神によって「絶対的に是認」されているという福音である。教会は十字架の主イエスを想起、記念する大事な聖礼典として聖餐式を伝承してきた。

そして突然、「しかし、見よ、私を裏切る者が、私と一緒に手を食卓に置いている」と、裏切りがあることを明言された。続いて、人の子（主イエス）は定められた通りに去って行く、だが、裏切る者に災いあれと言われた。弟子たちは、一体誰が裏切ろうとしているのかと、疑心暗鬼になり、議論を始めた。ユダの裏切りには誰も気づいていなかった。この過越の食事が「最後の晩餐」と言われ、重大なことが告げられ、緊迫した会話を生んだ。